



短日処理によるイチゴ秋どり栽培での養分吸収特性

研究のねらい

寒冷地では、遮光のみを行う短日処理により一季成り性イチゴ品種を花芽分化させ、秋（9～11月）に収穫することが可能であるが、本作型での施肥法は確立されていない。そこで、イチゴ秋どり栽培における養分吸収量および窒素吸収量の推移を明らかにする。

成果の内容

- ①寒冷地での短日処理によるイチゴ秋どり栽培における養分吸収量は、株当たり窒素(N)約1.5g、リン(P)約0.2g、カリ(K)約1.5gである(表)。
- ②窒素吸収量は、「女峰」、「とちおとめ」で10月(収穫前期)、「さちのか」で11月(収穫後期)に多く、「北の輝」では休眠前の9月に多い(図)。

表 寒冷地での短日処理によるイチゴ秋どり栽培における収量および養分吸収量

試験年度	品種	収量 (g/株)	養分吸収量					
			株当たり (g/株)			a当たり (kg/a)		
			N	P	K	N	P	K
2003	女峰	285	1.50	0.20	1.52	1.00	0.13	1.01
	とちおとめ	223	1.64	0.24	1.66	1.09	0.16	1.11
	さちのか	217	1.44	0.23	1.39	0.96	0.15	0.93
	北の輝	265	1.32	0.20	1.59	0.88	0.13	1.06
2005	女峰	180	1.53	0.18	1.49	1.02	0.12	1.00
	とちおとめ	154	1.50	0.19	1.42	1.00	0.13	0.95
	さちのか	69	1.14	0.14	0.90	0.76	0.09	0.60
	北の輝	198	1.54	0.18	1.46	1.03	0.12	0.97
4品種平均 ²⁾		217	1.50	0.20	1.51	1.00	0.14	1.00

²⁾2005年の「さちのか」(秋期高温および病虫害により著しく減収)を除外した場合の平均値
 短日処理: 8時間日長(明期9~17時)、暗期は100%遮光資材で遮光、栽植密度: 667株/a
 栽培概要 採苗: 5月中下旬、短日処理期間: 6月下旬~7月下旬、収穫期間: 9月下旬~12月上旬

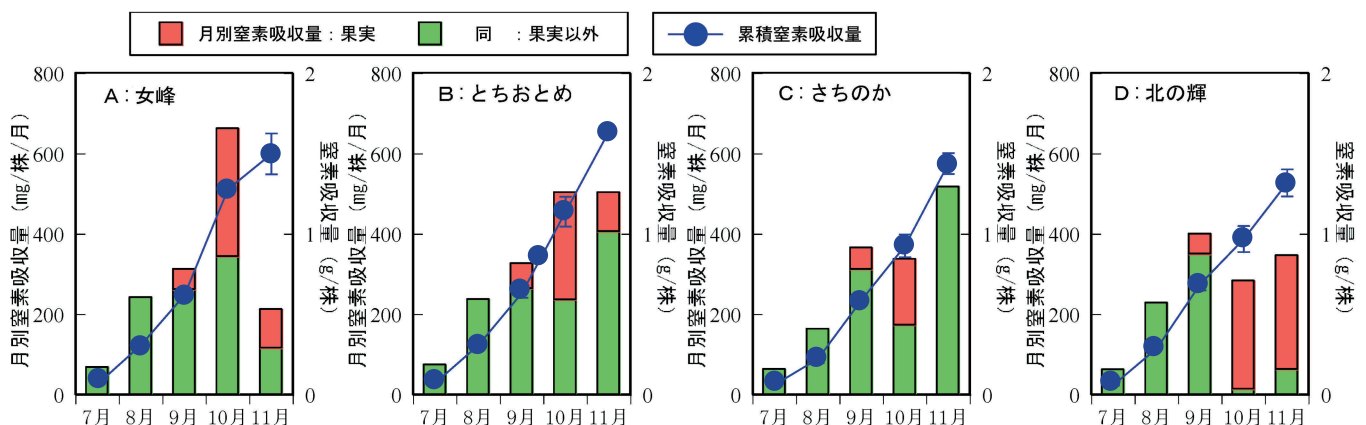


図 寒冷地での短日処理によるイチゴ秋どり栽培における品種別窒素吸収量の推移(2003年)

月別窒素吸収量 = (当月までの吸収量) - (前月までの吸収量)

成果の利活用

寒冷地において、短日処理によるイチゴ秋どり栽培を行う際の施肥法策定のための参考となる。